

地域

家庭

学校

みんなで子どもを育てる
コミュニティ・スクール令和8年7月発行
小樽市立朝里中学校
学校運営協議会事務局

CSかわら版

あじさいがつなぐ地域と生徒の絆

去る6月13日に行われました「あじさいドリームプロジェクト」での除草作業では、多くの地域住民の皆様、そして10名の生徒たちが集まってくださったことに、厚く御礼申し上げます。皆様の鮮やかな手際により、校舎周辺は見違えるほど美しく整いました。この活動の意義は、単なる美化作業に留まりません。今回、用務員さんが広範囲の草刈りを力強く担ってくださいました。ベテランの皆様のご知恵と、現役世代の機動力、そして生徒たちの若さが混ざり合うこの光景こそ、私たちが目指す「持続可能なコミュニティ」の姿です。共に汗を流す中で生まれる「心の交流」は、希薄になりがちな地域の絆を再構築する確かな力となります。

来る7月11日には、そのあじさいを眺めながら、「社会を明るくする運動」の一環として朝里地区少年を守る会の主催で、吹奏楽部の演奏も予定しております。こうした地域との強固な信頼関係こそが、学校内部の教育活動を支える揺るぎない土台となります。この絆を基盤に、生徒たちが直面している学習や生活の課題に対し、地域としてどのように寄り添えるか。次節の現状報告を踏まえ、共に考えていければ幸いです。



持続可能な地域連携モデルの構築

① 次年度防災訓練の高度化：避難所運営ゲーム「Doはぐ」

これまでの訓練を一步進め、中学生が「助けられる側」から「運営を担う戦力」へと成長するモデルを導入します。

多世代共生型の訓練 避難所の受付で高齢者が靴の着脱に苦勞する現状など、実際の混乱を想定した「Doはぐ」の実施を検討しています。生徒が地域の高齢者やPTA世代と混ざり、妊婦や発熱者への対応をシミュレートすることで、実践的な防災力を養います。

② 外部講師による地域学習講話：郷土の誇りを再発見

地元専門家の松田義章氏を招き、「朝里地区の地形と災害」についての講話を計画しています。

知的好奇心を刺激する 「かつて海面は120m低かった」「あさりの海岸に角ばった石が多いのは、そこが昔は川の一部だったから」といった、地学的な視点から故郷を紐解きます。地域への愛着を育むとともに、科学的根拠に基づいた防災意識を高める貴重な機会とします。

その他・お知らせ：地域行事 7・11

9時 PTA×CSあじさいドリームプロジェクト あじさいロード周辺の雑草取りを行います。30～40分程度の軽い作業です。ご協力よろしくお願いします。

10時 社会を明るくする運動 学校駐車場にて実施。更生保護への理解を深め、地域全体で子どもたちを見守る姿勢を示します。



CS 会長より

地域住民一人ひとりの「温かな眼差し」と、時には毅然とした「指導の目」こそが、生徒たちの心を支え、社会のリスクから守る最強の盾となります。今後とも、朝里中学校の教育活動へのご理解と、深い関わりを心よりお願い申し上げます。